

様式1 令和5年度 山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校学校評価計画(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	たくましい力、ゆたかな心を育てる
本年度の重点目標	1. 一人一人のニーズに応じた教育を行い、基礎・基本の定着や知識・技能を生活の場で活用できるよう指導する。 2. 保護者や地域と連携を深めるとともに地域における特別支援教育を推進する。 3. 安全・安心な学習環境を充実させる。 4. 教職員の働き方改革と資質向上を推進する。
達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校 校長 小林 勝	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価(1月10日現在)		
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策 方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	(1)児童生徒の実態やニーズを把握し、学年や学部の教師集団で情報共有しながら、同一指導方針のもと指導する。	①児童生徒の様子や容容の定期的な情報共有 ②授業集団や学年、学部で指導方針を話し合う機会を設ける。	・定期的に学年会や学部会で情報共有できたか。 ・指導計画作成時に話し合いを行ったか。 ・学年や学部で指導方針を共有したか。	A	・児童生徒数が少ないこともあって、実態やニーズについて把握しやすく、学部等で頻りに話し合い情報共有ができています。 ・指導計画についても、関係者の話し合いに基づいて作成されている。
	(2)集団の実態に合わせて学習内容を検討し、発達段階や障害に応じた授業づくりを目指す。	①児童生徒の実態に基づいた次年度の指導計画を前年度中に作成するようにしている。 ②学習指導要領を確認し教科や領域の指導と評価を適切にする。	・実態にあった指導計画を前年度中に作成する動きが始まる。 ・職員1名以上が教育課程等に関する研修を受け、それを校内研修を通して還元し議論をする。	B	・学習指導要領に基づき指導と評価の一体化を進めるとともに、個別指導計画や通知表の書式検討により成績処理効率を向上することで前年度中に指導計画を策定できるようなシステムを作っている。
	(3)指導と評価の一体化を進め、教育課程の充実に向けた検討を行っている。	①研究組織を小グループで編成し、一人一人の意見が反映しやすいようにする。 ②専門性の向上を目指して、校内研究会や学習会を実施する。 ③個々のICTスキルの向上を目指す。	・グループ編成や研究方法を工夫したか。 ・研修会や学習会を実施できたか。 ・自己研修や校外の研修会を活用できたか。	B	①②については、道徳教育をテーマに、小グループで検討したり、校内研究会や学習会を定期的に実施し、成果をあげている。 ③について、ICT支援員を活用して、各自で工夫してICTスキルの向上を目指している。
2	(1)PTA行事を企画し、学校と保護者、保護者同士の連携を図る。	①進路学習会や施設見学会を実施し、進路について啓蒙を図る。 ②PTA作業等とおして、保護者と学校が協働して活動する雰囲気醸成を図る。 ③PTAだよりを発行し、PTA活動の全体周知を図る。	・進路学習会や施設見学会を実施できたか。 ・PTA作業を実施できたか。 ・定期的にPTAだよりを発行できたか。	A	・さらに、保護者のニーズや学校への要望を汲み上げて教育課程に反映するようにしている必要がある。 ・現在は教職員が準備計画を担っているが、より保護者主体のPTA活動にしたいための検討を行う。
	(2)交流及び共同学習や地域支援を通して、圏域の特別支援教育を推進する。	①地域交流や学校間交流の機会確保に努め、直接交流を実施できるよう計画する。 ②地域の関係機関と顔の見える連携を図る。 ③地域の関係機関との連携の様子を地域支援だよりで校内外に周知する。	・計画的に交流及び共同学習を実施できたか。 ・各種協議会への参加や教育相談等の実施 ・地域支援だよりを発行して配付できたか。	A	・コロナも5類になったことで、学校や地域との交流も盛んに行うようになっている。ただ、相手の学校によっては、交流に消極的なところもみられた。 ・③の地域支援については、地域のニーズが高く、連携をすることができた。
3	(1)児童生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう感染症対策、緊急時対応など周知徹底を図る。	①感染症対策を徹底する。 ②救急体制の周知徹底を図る。 ③スクールバスの安全運行に努める。	・日常の中での手洗い、消毒等を呼びかけ徹底できたか。 ・緊急時シミュレーションや嘔吐研修を実施できたか。 ・添乗日誌の確認や対面での情報交換を行い連携を密に取ることができたか。	B	①コロナは5類になったことで、2学期はじめに油断をして、一挙にコロナ、インフルの感染が広がり、学校が休校になったことがあった。 ②救急体制等については、心肺蘇生法、嘔吐対応等の研修を頻りに行っている。 ③バスの運行について連携しながら安全運行に努めている。
	(2)児童生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう災害時や緊急時に備える。	①危機管理マニュアルを見直し、全体に周知する。 ②避難訓練や引き渡し訓練を実施する。 ③非常食や備蓄品を適切に管理する。	・分掌会議でマニュアルを検討できたか。 ・職員にマニュアルを周知できたか。 ・適切に訓練を実施できたか。 ・非常食や備蓄品を計画的に入れ替えることができたか。	A	①②校舎の立地場所が、河川沿いや土砂崩れ、道路閉鎖の可能性があるところなので、防災マニュアルの周知や避難訓練を頻りに行っている。 ②道路が寸断されて孤立する可能性もあるため、備蓄品も職員児童生徒ごとに十分用意している。
4	教職員の働き方改革を推進するとともに資質向上を図る。	①健康教育推進のため、職員の健康管理を推進する。 ②定時退校、年休消化の実践により私生活を充実させ教育の充実と反映させる。 ③研修の受講や資格の取得をし、専門性の向上を図ることで、教育や対応の効率がよくなり、職員の負担感が減る。	・各種検診の情報提供と職員検診の実施 ・定時退校達成回数 ・年休17日消化 ・職員が資質向上の目標を決め、研修受講や資格取得をする。	B	・多忙化解消等については、職員会議やオンラインのホワイトボード等で十分意見交換がされたが、実際は時間外勤務も多く、多忙化は十分解消されていない。定時退校はある程度達成でき、年休消化は十分達成できた。 ・職員の研修については、各自で必要な研修を受けており、資質向上を目指している。

学校関係者評価	
実施日 (令和6年2月25日)	
評価	意見・要望等
4	児童生徒、教師、保護者の三者のコミュニケーションや連携が、綿密でしっかりできている。ICT支援員の活用については、本校とも情報共有の中で、分校でもICT教育を推進してほしい。
3	保護者と学校との連携の機会が増えたことで、距離が近くなったと思います。来年度以降PTA活動等も含め、より連携を深め、風通しのよい学校を目指してほしい。各自の顔がみえる関係性はたいへん重要であると考えます。今後地域のインクルーシブ教育をさらに推進するための、積極的な情報発信を期待している。
4	防災教育に力を入れている点は、たいへん意義深いと考える。防災訓練が頻りに行われていることで、児童生徒自身が、自分の身を守る意識を高めることができたと思う。また、嘔吐研修を本年度行うことができたことも評価できる。感染防止のために重要な訓練で次年度以降も引き続き行ってほしい。
4	定時退校、年休消化の達成によって、さらに多忙化を解消してもらいたい。時間外勤務が多いようなので、職員間の連携や意思疎通を図り、業務の効率化に努めてもらいたい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。